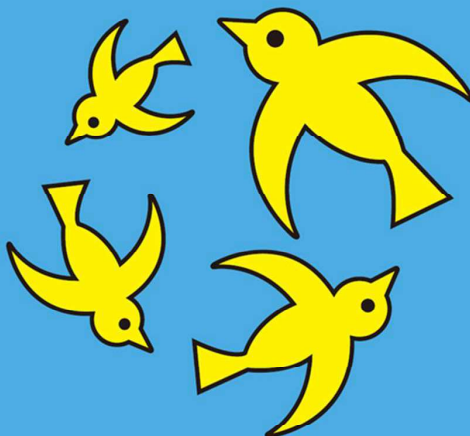


新しい学習指導要領

生きる力

学びの、その先へ



学習指導要領下における 学習評価及び指導要録の改善について

令和4年

文部科学省初等中等教育局教育課程課



1. 高等学校学習指導要領について

学習指導要領改訂に関するスケジュール



	平成26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	2年度 (2020)	3年度 (2021)	4年度 (2022)
幼稚園		中教審における検討		周知・徹底	平成30年度～全面实施				
小学校		論点整理	審議まとめ	改訂 29 3 31	教科書検定	採択・供給	使用開始	令和2年度～全面实施	
中学校	中教審諮問 26 1.1 20	27 ・ 8 ・ 26	28 ・ 8 ・ 26	改訂 29 3 31	教科書検定	採択・供給	使用開始	令和3年度～全面实施	
高等学校				改訂 30 3 30	教科書検定	採択・供給	使用開始	令和4年度～年次進行で実施	

特別支援学校学習指導要領(幼稚園及び小学部・中学部)についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。
特別支援学校学習指導要領(高等部)は、平成31年2月4日に改訂告示を公示。

2

学習指導要領改訂の考え方



新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化，高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し，目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など，新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず，質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については，些末な事象的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており，そうした点を克服するため，重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

3

育成すべき資質・能力の三つの柱



学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。

学びに向かう力，人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力，判断力，表現力等

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

4

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数①



〔改訂〕				〔現行〕			
教科	科目	標準単位数	必修科目	教科	科目	標準単位数	必修科目
国語	現代の国語	2	○	国語	国語総合	4	○2単位まで可
	言語文化	2	○		国語表現	3	
	論理国語	4			現代文A	2	
	文学国語	4			現代文B	4	
	国語表現	4			古典A	2	
	古典探究	4			古典B	4	
地理歴史	地理総合	2	○	地理歴史	世界史A	2	□○
	地理探究	3			世界史B	4	
	歴史総合	2	○		日本史A	2	□○
	日本史探究	3			日本史B	4	
世界史探究	3		地理A	2	□		
				地理B	4	□	
公民	公共	2	○	公民	現代社会	2	「現代社会」
	倫理	2			倫理	2	又は
	政治・経済	2			政治・経済	2	「倫理」「政治・経済」
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで可	数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで可
	数学Ⅱ	4			数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3			数学Ⅲ	5	
	数学A	2			数学A	2	
	数学B	2			数学B	2	
	数学C	2			数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目	理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2			物理基礎	2	
	物理	4			物理	4	
	化学基礎	2			化学基礎	2	
	化学	4			化学	4	
	生物基礎	2			生物基礎	2	
	生物	4			生物	4	
	地学基礎	2			地学基礎	2	
	地学	4			地学	4	
			理科課題研究	1			

5



保健 体育	体育 保健	7~8 2	○ ○	保健 体育	体育 保健	7~8 2	○ ○
芸術	音楽Ⅰ	2	○	芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2			音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2			音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2			美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2			美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2			美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2			工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2			工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2			工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2			書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2			書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2			書道Ⅲ	2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	○2単位まで減	外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減
	英語コミュニケーションⅡ	4			コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	英語コミュニケーションⅢ	4			コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	論理・表現Ⅰ	2			コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	論理・表現Ⅱ	2			英語表現Ⅰ	2	
論理・表現Ⅲ	2	英語表現Ⅱ	4				
家庭	家庭基礎	2	○	家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4			家庭総合	4	
情報	情報Ⅰ	2	○	情報	社会と情報	2	○
	情報Ⅱ	2			情報の科学	2	
理数	理数探究基礎	1					
	理数探究	2~5					
総合的な探究の時間		3~6	○2単位まで減	総合的な学習の時間		3~6	○2単位まで減



2. 学習評価及び指導要録の改善について



児童生徒の学習評価に関する検討の経緯



□平成28年12月21日

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の
学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」
(中等教育審議会答申)(※)



以下
「**答申**」
という。

(※)学習指導要領の改訂に伴う学習評価の検討については、従来、学習指導要領
の改訂を終えた後に行うのが一般的だったが、今回の改訂では、教育課程と
学習評価の改善について一体的に検討され、学習評価の改善についても
本答申に示された。

□平成31年1月21日

「児童生徒の学習評価の在り方について」
(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告)



以下
「**報告**」
という。

□平成31年3月29日

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における
児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善等について」
(文部科学省初等中等教育局長通知)



以下
「**改善等通知**」
という。

以降の説明資料の下部に、当該資料に関して参考とすべき答申、報告、改善等通知を
〈参考〉として掲載するので、適宜御参照いただきたい。

8

高等学校における観点別学習状況の評価の充実



【指導要録の参考様式における改善点】

高等学校における観点別学習状況の評価の更なる充実とその質を高めることが必要。



指導要録の参考様式にも各教科・科目の観点別学習状況を記載する欄を設置。

様式2 (指導要録の記録)		学校名		学年			
学年・氏名		学年		1	2	3	4
各教科・科目毎		第1学年		第2学年	第3学年	第4学年	備考
教科等	科目等	学習	態度	学習	態度	学習	態度
		状況	評価	状況	評価	状況	評価
新科目等	現代の国語						
	英語						
	地理						
	歴史						
	公民						
各学科に共通する各教科	数学						
	理科						
	体育						
	音楽						
	美術						

第1学年		
観点別 学習状況	評価	修得単 位数
AAA	5	2

従来の評価、修得単位数に加えて、
「観点別学習状況」欄を新設

観点別学習状況の評価の観点の整理



資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

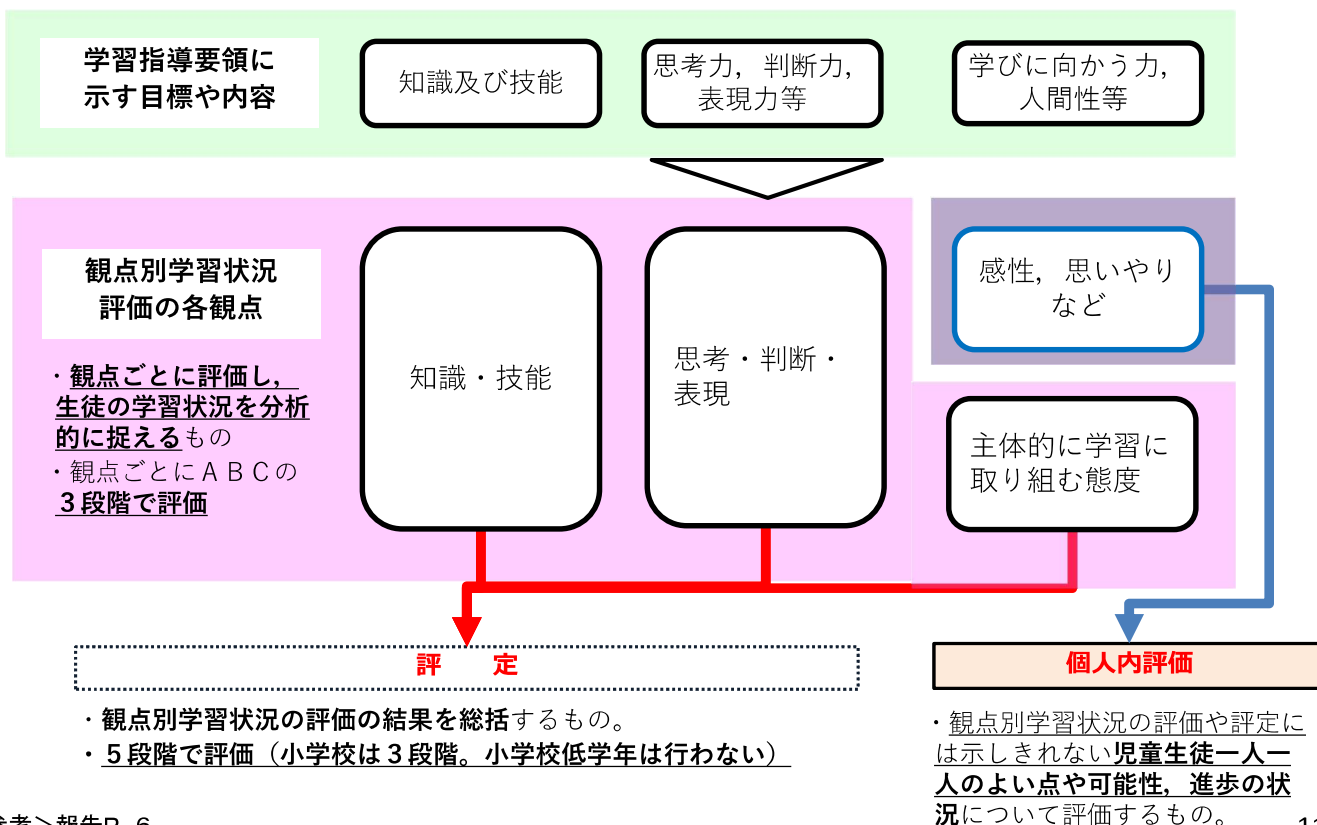


<参考> 答申P. 61 報告P. 7 改善等通知2. (1)

【まとめ】各教科における評価の基本構造



- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



<参考> 報告P. 6



参考：高等学校指導要録の参考様式の主な変更点

◆様式2（指導に関する記録）表面

各教科・科目等の学習の記録		学年				備考				
教科等	科目等	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年					
各教科・科目等	国語	現代の国語	5							
	英語	英語	2							
	歴史	歴史								
	地理	地理								
	公民	公民								
	数学	数学								
	理科	理科								
	体育	体育								
	芸術	芸術								
	総合	総合								

従来の評価、修得単位数に加えて、
「観点別学習状況」欄を新設
※定期考査や実技などで活用可能な事例を提示するなど、
高等学校の実態や教師の勤務負担の軽減に配慮

特別活動の記録は、従来の文章記述を改め、各活動・
学校行事ごとに評価の観点に照らして十分満足できる
活動の状況にあると判断される場合に○印を記入

◆様式2（指導に関する記録）裏面

学習活動		総合的な探究の時間の記録				評価
学習活動	観点	1	2	3	4	
特別活動の記録	内容	観点	1	2	3	4
	ホームルーム活動					
	生徒会活動					
	学校行事					

文章記述欄は、要点を簡条書きと
するなど記載事項を必要最小限に

学習評価の在り方ハンドブック



- 令和元年6月 国立教育政策研究所作成
(小・中学校編、高等学校編)
- URL https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf
(QRコードはこちら →)



- 以下の項目を、コラムも加えつつ、教師向けに分かりやすく説明(12頁)
 - 学習指導要領と学習評価の関係
 - 学習評価の基本的な考え方
 - 学習評価の基本構造
 - 特別の教科 道徳, 外国語活動, 総合的な学習の時間及び特別活動の評価について
 - 観点別学習状況の評価について
 - 学習評価の充実
 - Q & A





- 高等学校編 令和3年8月 国立教育政策研究所作成
(教科等ごとに作成)

- URL

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

(QRコードはこちら →)



- 構成

第1編 総説

第1章 平成30年改訂を踏まえた学習評価の改善

第2章 学習評価の基本的な流れ

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

第3編 単元ごとの学習評価について(事例)

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた
評価規準の作成

第2章 学習評価に関する事例について

NITSのオンライン講座



- NITS(独立行政法人教職員支援機構)作成

- URL <https://www.nits.go.jp/materials/>

(QRコードはこちら →)



- YouTubeで講義動画を配信(1本20分)

「新学習指導要領編」

- ・新学習指導要領に対応した学習評価(高等学校編)

(文部科学省 初等中等教育局 主任視学官 長尾篤志)

その他、新学習指導要領の各教科等の改訂のポイントを解説した動画等

「校内研修シリーズ」

学習指導の充実(カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学び等)、
初等中等教育の充実(言語活動、外国語教育、道徳教育等) など多数

